

令和8年7月2日
北海道開発局

川の中の生きものを調べてみませんか

～令和8年度 全国水生生物調査の参加者募集～

環境省と国土交通省では、水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するとともに、環境問題への関心を高めるため、一般市民等の御協力を得て全国水生生物調査を実施しています。

つきましては、北海道開発局における令和8年度全国水生生物調査の参加者募集について、お知らせします。令和7年度調査には、3,079人の方に参加していただきました。令和8年度も多くの方の参加をお待ちしております。

河川に生息するヒラタカゲロウ類、カワゲラ類等の水生生物の生息状況は、その川の水質汚濁の影響を反映することから、水生生物調査は、実際に川の中に入って採取した水生生物により水質の判定を行うもので、誰でも簡単に参加できる調査です。

調査への参加を希望される方は、別紙の「全国水生生物調査に参加を希望される場合のお問合せ先」までご連絡ください。

令和7年度の調査結果（北海道開発局関係分）は、資料—1、資料—2をご覧ください。
また、全国の調査結果は、国土交通省本省及び環境省から発表されています。（資料—3）
詳細は国土交通省のホームページをご覧ください。

（国土交通省 報道・広報 URL）

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000303.html

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

建設部 河川管理課 低潮線保全官 山口 昌志（内線 5323）

低潮線保全係長 村田 紗織（内線 5970）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



全国水生生物調査に参加を希望される場合のお問合せ先

令和8年度も下記の河川において、市民の方々の参加を得て全国水生生物調査を実施します。
各河川の調査時期・場所等については、下記の担当課までお問い合わせください。

河川名	部局名	担当課	電話
石狩川(下流)	札幌 開発建設部	公物管理企画課 〒060-8506 札幌市中央区北2条西19丁目	011-611-0328
後志利別川	函館 開発建設部	工務課 〒040-8501 函館市大川町1-27	0138-42-7604
尻別川	小樽 開発建設部	工務課 〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15-5	0134-23-5195
天塩川(上流) 石狩川(上流)	旭川 開発建設部	公物管理課 〒078-8513 旭川市宮前1条3丁目3-15	0166-32-1487
鶴川 沙流川	室蘭 開発建設部	治水課 〒051-8524 室蘭市入江町1-14	0143-25-7045
釧路川	釧路 開発建設部	治水課 〒085-8551 釧路市幸町10丁目3	0154-24-7250
十勝川	帯広 開発建設部	治水課 〒080-8585 帯広市西5条南8丁目	0155-24-4105
網走川 常呂川 湧別川 渚滑川	網走 開発建設部	治水課 〒093-8544 網走市新町2丁目6-1	0152-44-6471 0157-23-6118
留萌川 天塩川(下流)	留萌 開発建設部	治水課 〒077-8501 留萌市寿町1丁目68	0164-43-5515

令和7年度全国水生生物調査の概要（北海道開発局関係分）

（1）調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、①全国に広く分布し、②分類が容易で、③水質に係る指標性が高い、29種を指標生物としました。

河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、Ⅰ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）、Ⅳ（とてもきたない水）の4階級で水質の状況を判定しました。

（2）調査結果

○参加者数

令和7年度の参加者は、3,079人でした。

参加者数	3,079人
参加団体数	86団体
調査地点数	48地点

○水質判定結果

令和7年度は、全調査地点の92%の地点で「きれいな水」と判定されました。

		地点数	割合
Ⅰ類	きれいな水	44地点	92%
Ⅱ類	ややきれいな水	3地点	6%
Ⅲ類	きたない水	1地点	2%
Ⅳ類	とてもきたない水	0地点	0%

※うち8地点は、河川管理者による実施

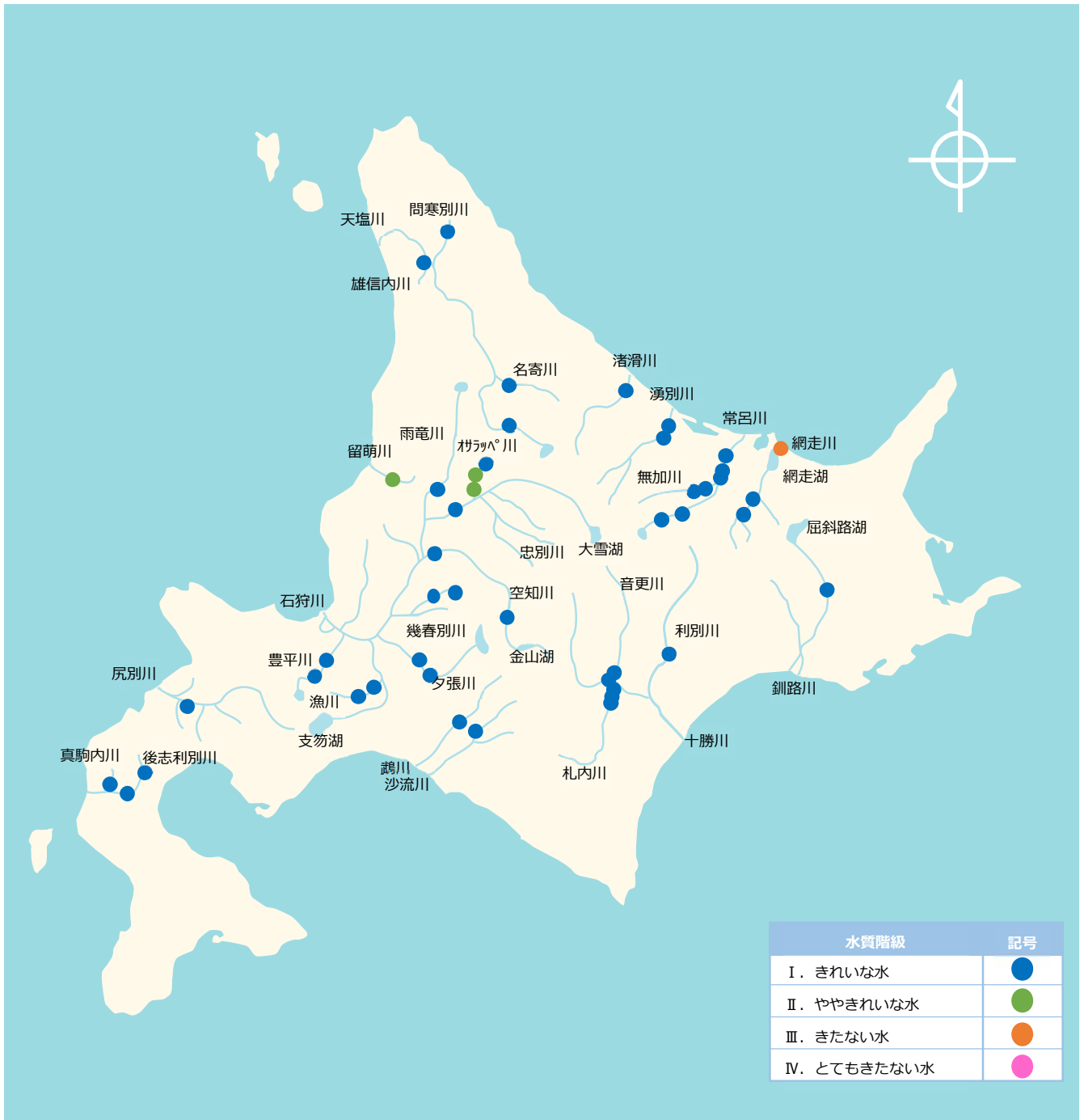


石狩川水系 雨竜川



十勝川水系 札内川

令和7年 水生生物調査地点位置図<北海道>



令和7年度全国水生生物調査結果（北海道開発局関係分）

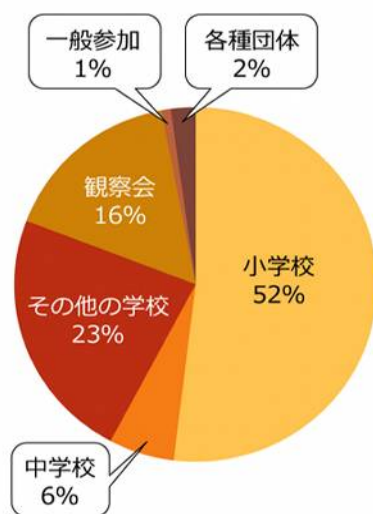
1. 参加人数及び団体数

令和7年度の参加人数は、延べ3,079人（86団体）となりました。参加団体別参加人数は小学校が最も多く、次いで高校の順でした。

○ 参加人数と参加団体数の推移



○ 参加団体の構成比

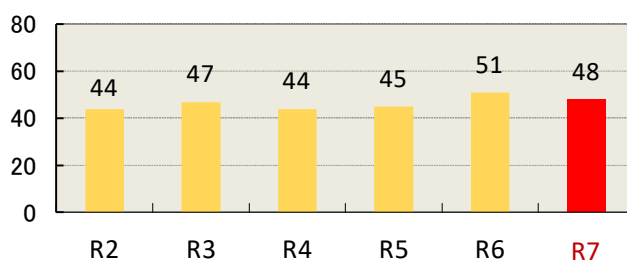


※高校は「その他の学校」、応募学生等は「観察会」として計上しています。

2. 調査地点数

令和7年度の調査地点数は48地点でした。（うち8地点は、河川管理者による実施）

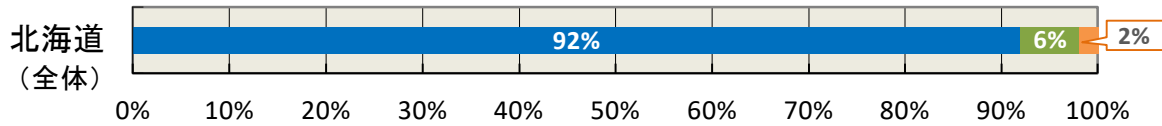
○ 調査地点数の推移



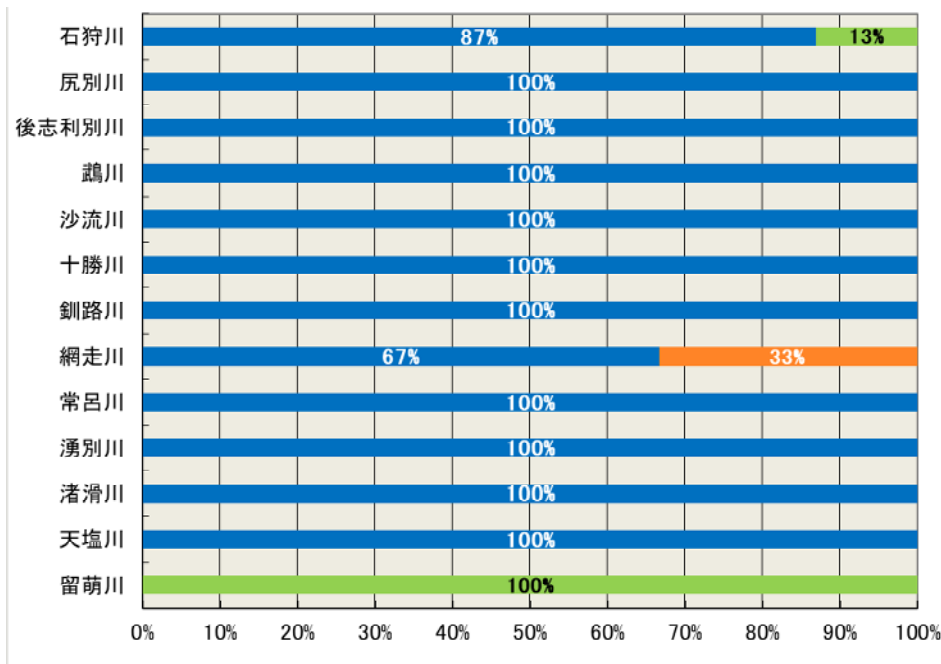
3. 河川別水質階級構成（地域別の水質の状況）

令和7年度は、水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が92%、Ⅱ（ややきれいな水）が6%、Ⅲ（きたない水）が2%、Ⅳ（とてもきたない水）に判定された地点は確認されませんでした。

○令和7年度 河川別の水質階級構成



（水系別の内訳）

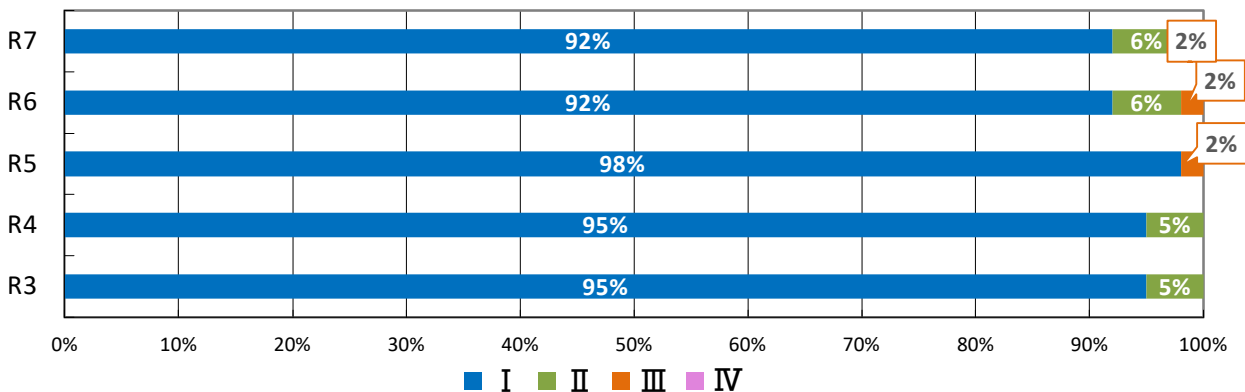


- Ⅰ（きれいな水）
- Ⅱ（ややきれいな水）
- Ⅲ（きたない水）
- Ⅳ（とてもきたない水）

4. 水質階級構成比の年次推移

過去5か年の推移を見ると、水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点は、9割以上を示しています。

○水質階級構成比の年次推移



同時発表：環境省

令和8年6月18日
水管理・国土保全局河川環境課

川の生きものを見つけよう！ ～令和7年度全国水生生物調査結果のとりまとめ～

国土交通省と環境省では、川の生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、毎年、地域の皆様のご協力をいただいて『全国水生生物調査』を実施しています。

このたび、令和7年度の水生生物調査結果をとりまとめましたので、お知らせします。

令和8年度も広く地域の皆様の参加を得て調査を実施しますので、是非御参加ください。

【全国水生生物調査とは】

○サワガニ、カワゲラ類等の川の水に住む生き物（水生生物）のうち29種を指標生物とし、その生物が生息しているかどうかで水質を判定します。

○河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、Ⅰ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）、Ⅳ（とてもきたない水）の4階級で水質の状況を判定します。

○令和8年度も4月～10月を中心に調査を実施しています。

開催日や場所等の詳細については、各地方整備局等又は各都道府県の環境部局までお問い合わせ下さい。

（お問い合わせ先）

- ・各地方整備局等の窓口（一級河川国管理区間に関するもの）

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/toiawase.html

- ・各都道府県の環境部局（上記以外）

https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/etsuran/list_pref.html

また、調査方法等につきましては下記をご確認ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000296.html

【令和7年度 調査結果概要】（詳細は別添をご覧ください。）

○参加者数・参加団体・調査地点数

令和7年度の参加者は34,417人（令和6年度38,444人）でした。

	参加者数	参加団体数	調査地点数
一級河川※1	12,518人	304団体	335地点
その他の河川※2	21,899人	706団体	1,002地点
合計	34,417人	1,010団体	1,337地点

※1：一級河川国管理区間

※2：一級河川都道府県管理区間及び二級河川等（※1以外の河川）

○水質判定結果

全調査地点の90%の地点でⅠ（きれいな水）又はⅡ（ややきれいな水）と判定され、令和6年度（90%）と同じとなりました。

	一級河川	その他の河川	全調査地点
Ⅰ きれいな水	67%	60%	62%
Ⅱ ややきれいな水	27%	28%	28%
Ⅲ きたない水	2%	4%	4%
Ⅳ とてもきたない水	1%	3%	2%
判定不能	2%	4%	4%

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがあります。

※判定不能：指標生物が見つからなかった場合等

【お問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

企画専門官 前田 裕太（内線 35441）

係長 木村 ほのか（内線 35482）

TEL 03-5253-8111（代表）、03-5253-8447（直通）

環境省 水・大気環境局 環境管理課 環境汚染対策室

室長 鈴木 清彦

室長補佐 野口 宏

担当 鍛冶 尚寛

TEL 03-3581-3351（代表）、03-5521-8314（直通）

令和7年度全国水生生物調査結果

1. 参加者数及び参加団体数

令和7年度の参加者数は34,417人であった。

うち、一級河川※1は12,518人であり、その他の河川※2は21,899人であった。また、参加団体数は1,010団体で、うち一級河川は304団体であった。

参加団体別の参加者数は小学校が最も多く、次いで各種団体、観察会の順番であった。

都道府県別の参加者数では岐阜県が最も多く、次いで岩手県、北海道の順番であった。

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加者数	うち一級河川
1	岐阜	4,124	0
2	岩手	3,367	0
3	北海道	3,060	3,060
4	福島	2,120	210
5	宮崎	1,717	293

※1一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

※2一級河川都道府県管理区間及び二級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

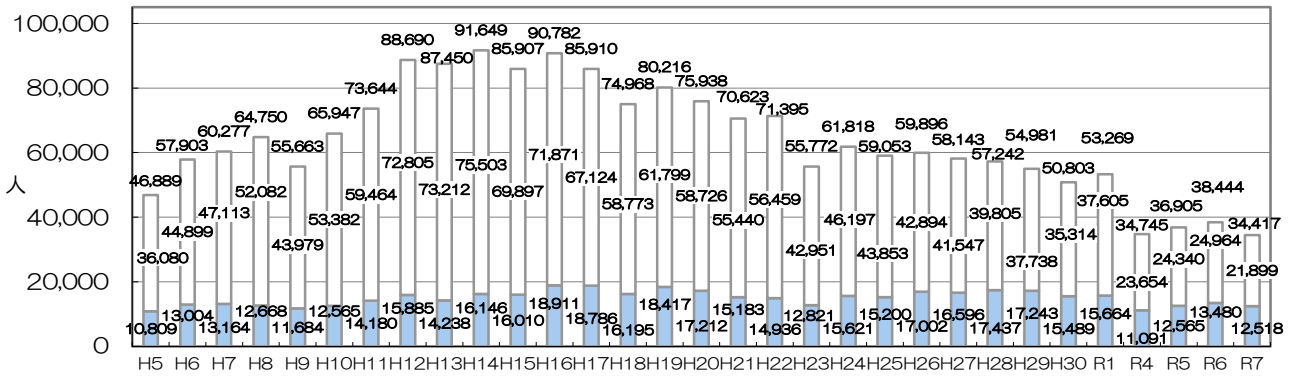


図-1 参加者数の推移

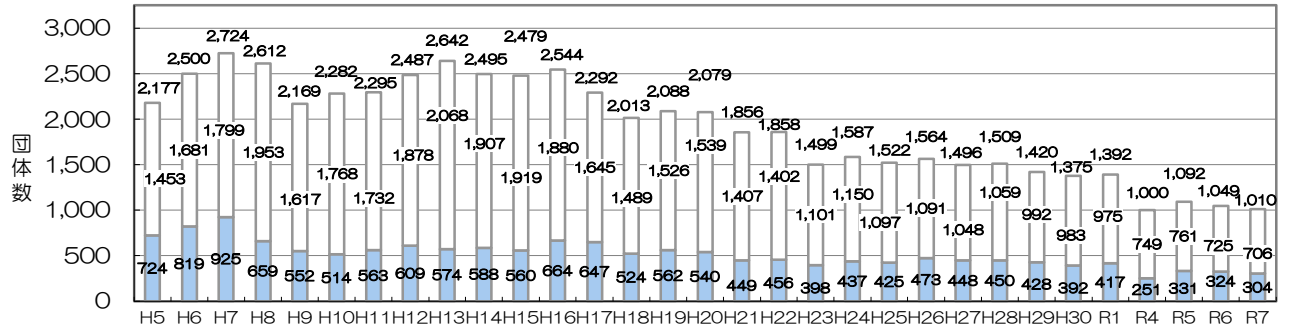
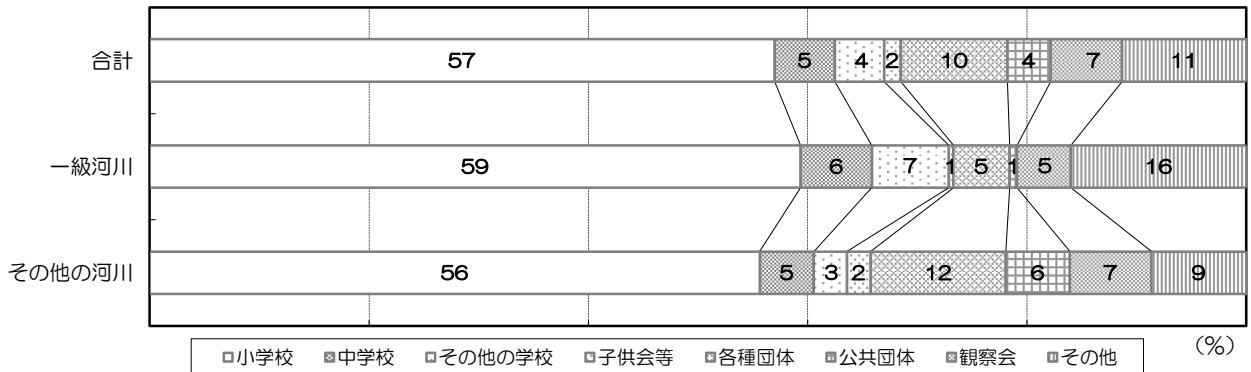


図-2 参加団体数の推移



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加者数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は1,337地点であった。

内訳は、一級河川は335地点、その他の河川は1,002地点であった。

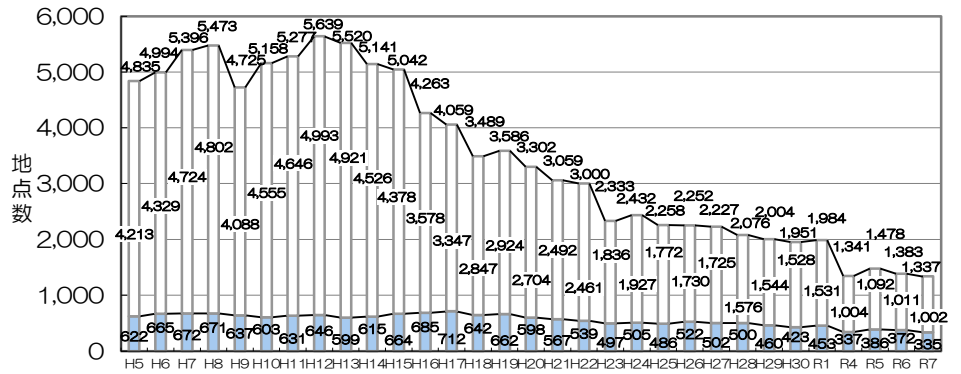
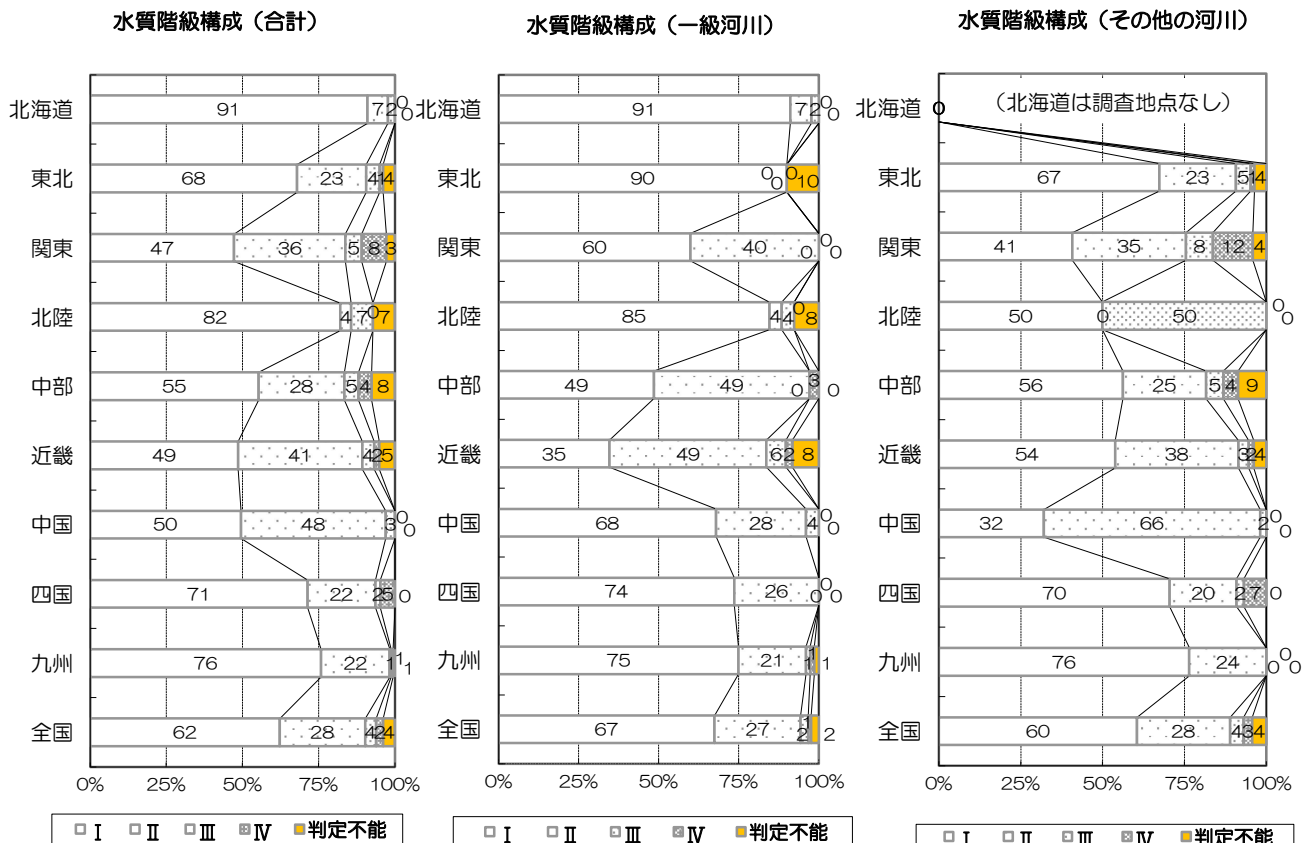


図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状態を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると考えられる。

令和7年度は、全国で水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が62%、Ⅱ（ややきれいな水）が28%、Ⅲ（きたない水）が4%、Ⅳ（大変きたない水）が2%であった。



※ 四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

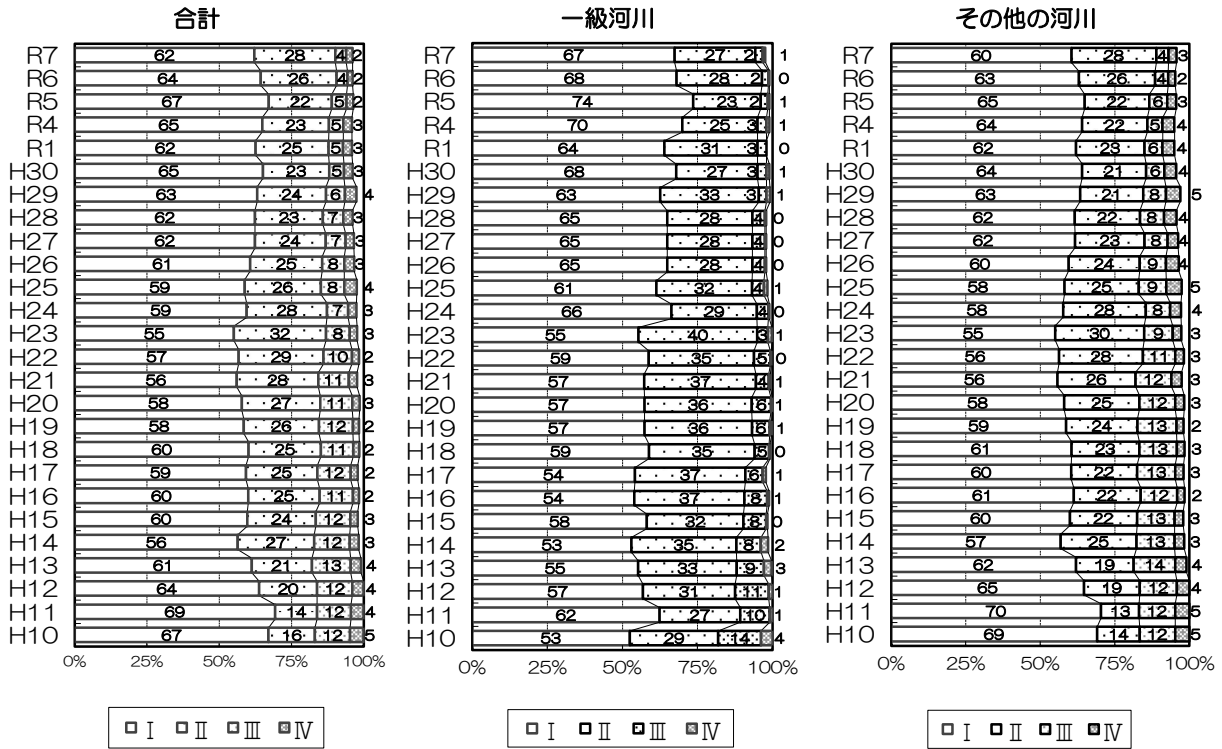
図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。

平成11年度をピークに、I（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成14年度以降は55～65%前後でほぼ横ばいとなっている。本年度は、I（きれいな水）と判定された地点の割合は62%であった。

なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。

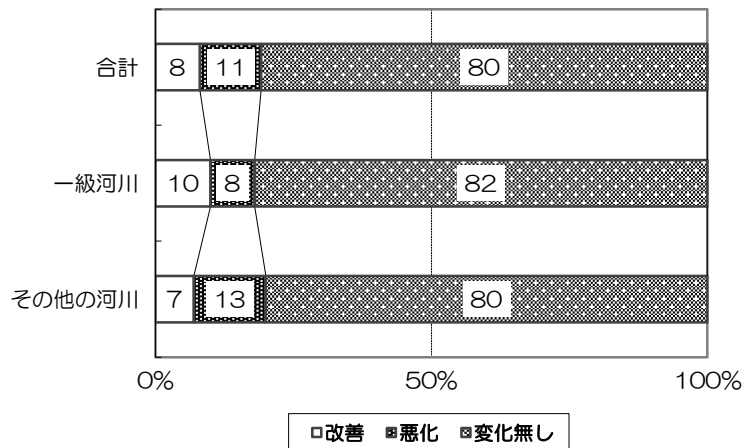


※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
 ※2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前の厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（R6）との比較

前年度と同じ地点で調査された792地点について比較すると、8%の地点が改善、11%の地点が悪化、80%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較